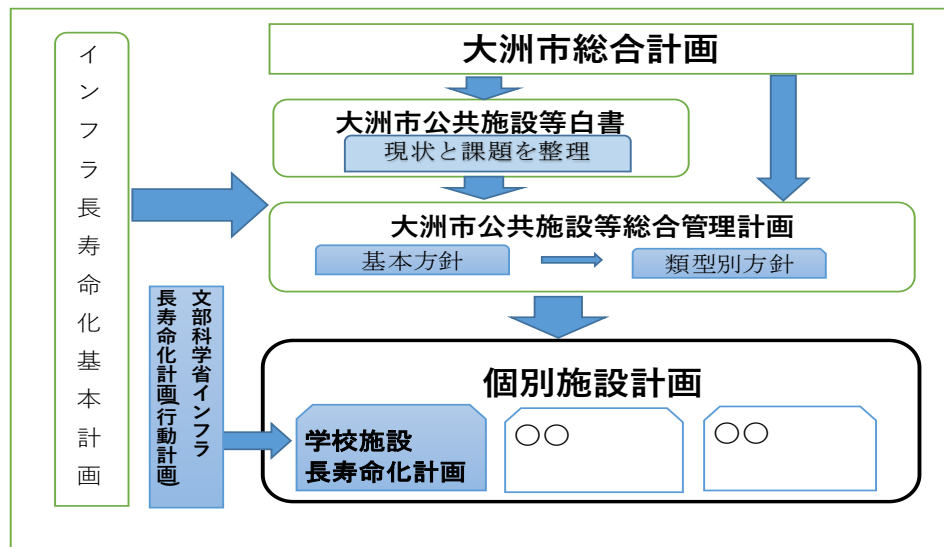


大洲市学校施設長寿命化計画 概要版

1 目 的

従来の「改築中心・事後保全」から施設の使用年数を延長する「長寿命化中心・予防保全」の考え方へ整備手法の転換を図り、財政負担の軽減と平準化を図ることを目的とする。

2 計画関連図



3 計画期間

本計画の計画期間は、大洲市総合計画や大洲市公共施設等総合管理計画との整合性を考慮して、令和2年度から令和7年度の6年間とする。

令和2年度(2020年度)～令和7年度(2025年度)

4 対象施設

本計画における対象施設は、令和2年4月現在、本市が保有している小学校及び中学校の学校施設（校舎・屋内運動場・プール）とする。

対象施設	学校数	棟 数	延床面積(㎡)	プール数	備 考
小学校	12	41	42,763	12	※1.4
中学校	7	26	27,662	6	※1.2.3.4
合 計	19	67	70,425	18	

※1 平小・粟津小・長浜小屋内運動場:改築設計の数字で含む

※2 肱川中:現在仮校舎使用(旧正山小学校)のため含まない

※3 河辺中:休校のため含まない

※4 倉庫等(200㎡未満の建築物)は含まない

※5 プール数:平野中・肱川中は小学校兼用

5 学校施設の目指すべき姿

(1) 教育環境の整備

- ①学習能率の向上に資する快適な学習環境の整備
- ②児童生徒が愛着と誇りの持てる環境の整備
- ③教職員等の負担軽減などに配慮した環境の整備
- ④時代に応じた I C T 環境の整備

(2) 施設の安全性の確保

- ①地震、津波、水害等の災害に強い学校施設
- ②防災機能を備えた学校施設
- ③防犯機能を備えた安全で安心な学校施設

(3) 地域連携の充実

- ①伝統文化や行事の継承など地域と連携した学校施設
- ②災害時の避難所の機能を備えた学校施設
- ③学校、保護者、地域が協力して運営する学校施設

6 各施設の老朽化状況の実態

(1) 学校の校舎及び屋内運動場の状況

築 40 年以上経過している施設は、小学校施設 10 棟 (24.4%)、中学校施設 10 棟 (38.4%) である。(それ以外に耐震性能が不足している施設は、令和 4 年度末までに全て改修・改築を完了する予定)

また、築 50 年以上経過している 4 施設 (大洲南中学校校舎) については、早急に対応方法を検討する必要がある。

(2) 学校プールの状況

特に中学校は全 6 校、小学校は半分の 6 校のプールが築 40 年以上経過しており、大規模改造及び改築 (更新) 時期を迎えている。

プール施設の老朽化に伴う更新は、水泳学習状況の変化、小中学校の立地状況、児童生徒数の状況やプールの利用状況を踏まえて、学校プールの統合や民間プールの利用等を検討していく必要がある。

7 学校施設の整備の基本的な 3 つの方針

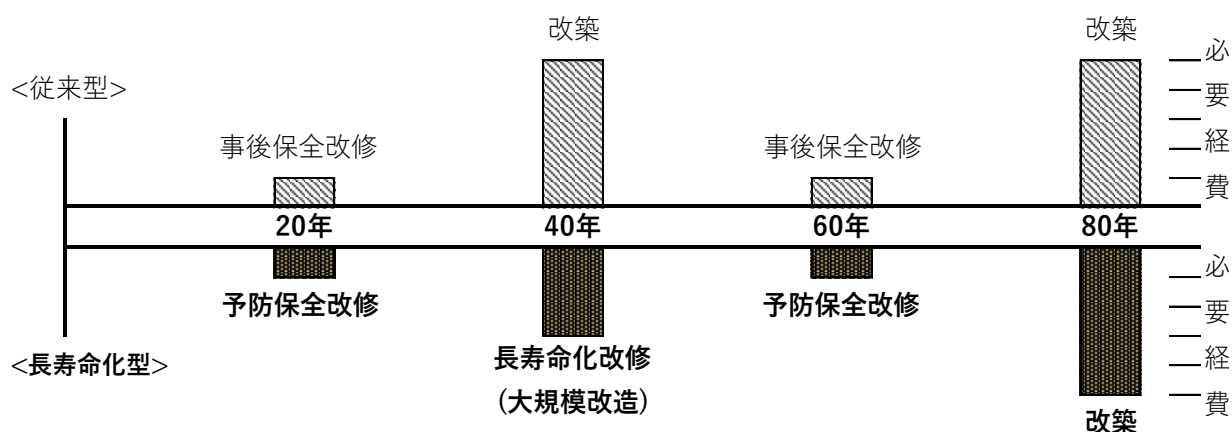
施設の長寿命化	現在の「耐用年数＝改築」という考え方から施設の状況に応じて「使用年数延長＝大規模改修」の視点により、改築時期の分散を図る。また、安全安心な教育環境を確保するため、「事後保全」から「予防保全」による改修を計画的に実施する。
必要な機能の整備	社会情勢や気象状況の変化により求められる良好な教育環境の確保、I C T 教育環境の整備、教育システムの拡充及び防災機能の充実などに応じるための機能の整備を図る。
施設規模の適正化	現在は小学校の 1 校を除き複式学級編成の解消が図られているが、将来の更なる児童生徒数の減少を見込み、施設規模の適正化を図る。 学校プールにおいても、児童生徒数の推移、使用頻度等を考慮し、統廃合等による適正な配置及び規模の検討を行う。

8 基本的な方針を踏まえた施設整備の考え方

(1) 長寿命化の考え方

- ① 建物の改築時期を原則築80年とする。
- ② 長寿命化改修時期を原則築40年とする。
- ③ 予防保全改修の標準的周期を原則築20年と築60年とする。

<長寿命化イメージ>



予防保全改修	長寿命化改修	予防保全改修
・ 屋根防水張替え ・ エコ機器更新 ・ 空調機器更新 ・ 必要箇所改修など	・ 外壁塗装 ・ 屋根防水張替え ・ トイレ改修 ・ 鉄筋等腐食対策 ・ 学習内容への対応 ・ 設備機器の更新など	・ 屋根防水張替え ・ エコ機器更新 ・ 空調機器更新 ・ 必要箇所改修など

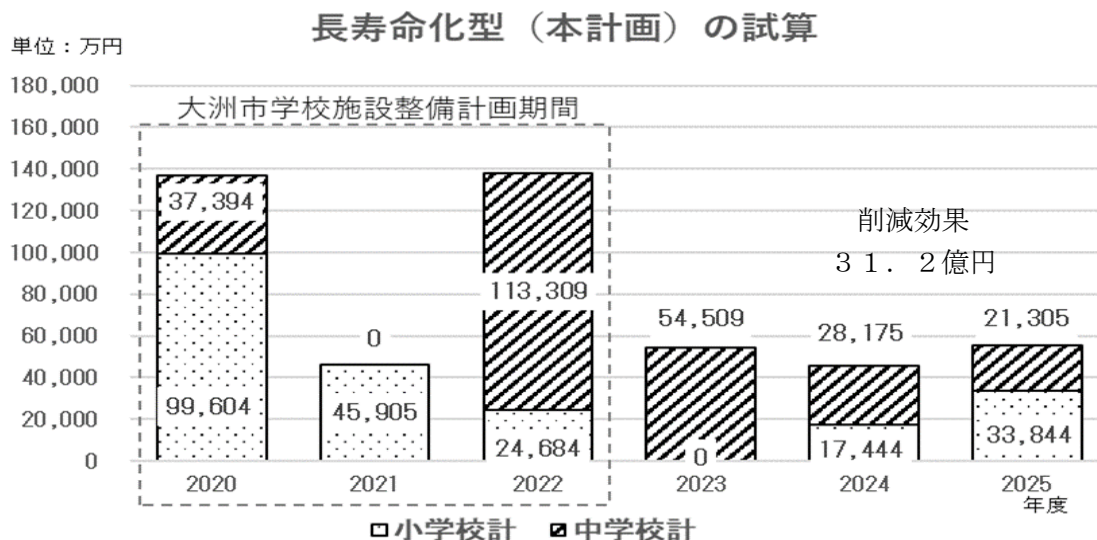
9 長寿命化計画と効果

《長寿命化計画の推進方法》

改修等の時期(目安)	築80年・・・改築 築40年・・・長寿命化改修 築20年、60年・・・予防保全改修
事前調査の実施	建築士等の専門家による調査 改修等の整備項目に沿って老朽度等の調査を行い、整備方法の検討や概算経費の試算を行う。
改修内容や時期の設定	改修の必要性の検討(事前調査の結果による) 優先順位の検討(複数校ある場合) 財源の確保の検討(交付金等の申請)

《小中学校校舎・屋内運動場の長寿命化計画における試算結果》

[基本 築 20・60 年：予防保全改修 ・ 築 40 年：長寿命化改修 ・ 築 80 年：改築]

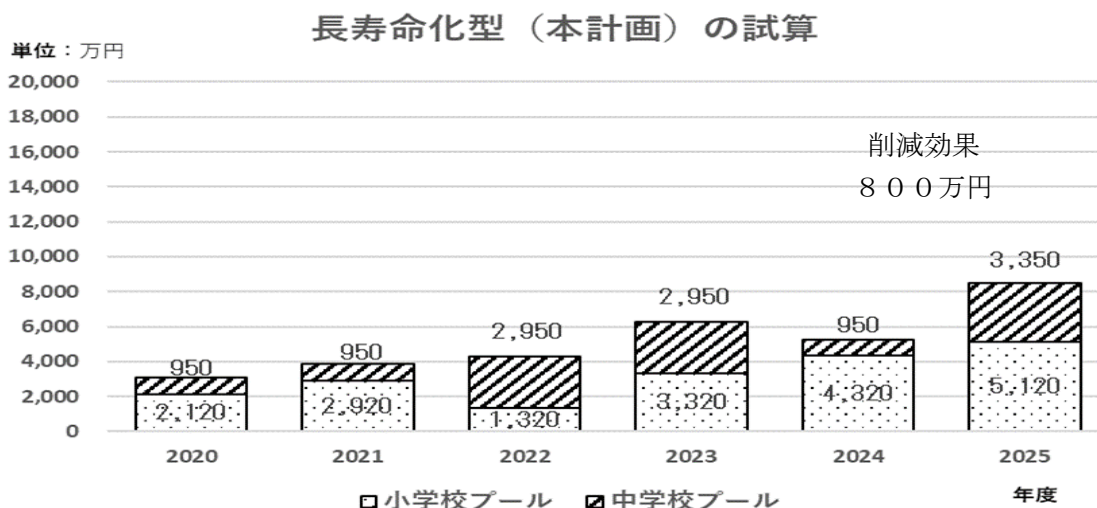


◆長寿命化計画における効果（校舎・屋内運動場分）

(単位：万円)							
年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025	計
従来型の試算	104,329	129,600	149,973	132,838	158,536	112,918	788,193
長寿命化型の試算	136,998	45,905	137,993	54,509	45,619	55,149	476,173
長寿命化計画の効果	-32,669	83,695	11,980	78,328	112,917	57,769	312,020

《小中学校プールの長寿命化計画における試算結果》

[基本 築 20・40・60 年：プール槽改修 ・ 築 40 年：プール長寿命化改修・ポンプ改修
築 80 年：プール改築]



◆長寿命化計画における効果（学校プール分）

(単位：万円)							
年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025	計
従来型の試算	3,070	3,870	2,270	2,270	2,270	18,270	32,020
長寿命化型の試算	3,070	3,870	4,270	6,270	5,270	8,470	31,220
長寿命化計画の効果	0	0	-2,000	-4,000	-3,000	9,800	800